

# すまいるたん



第226号

平成24年

9月13日

## はい！東京新聞です

### 取材現場のつらさ



名古屋市で起きた、七歳の小学生女子

児童が監禁され、逮捕された容疑者の父

親が殺されていた事件。広島市で小学校

六年生の女子児童が男にナイフを突きつ

けられ、旅行かばんに詰め込まれて連れ

去られた事件。どちらも、私が本社でニュー

スデスクを担当している日に発生、発覚

しました。女子児童は助け出され、容疑

者は逮捕され、事件は捜査中ですが、私

自身、三人の娘を持つ父親として、怒り

と恐怖を覚えるとともに、こうした犯罪

から、どうやって子どもたちを守ればい

いのか、悩みます。

二つの事件は、どちらも一人だけで街

知りを一人でも増やす努力が必要です。

仕事柄、というのはいい訳ですが、私は、

早朝から深夜まで取材やデスク勤務が当た

り前の、家にいない時間が長い生活です。

以前から、少しでも空いた時間を有効に使っ

て、地域、学校とかかわりをもちたいと思っ

ていました。

今年から思い切って、娘が通う小学校の

「おやじの会」に参加しました。運動会な

ど学校行事で荷物運びや警備といった、学

校のちよつとしたお手伝いが活動です。年

間で活動日数がPTAよりずっと少ないの

で、何とかできると思いました。

これが、けっこう楽しいんです。運動会

等の行事を、見るだけでなく、少しは「参

加している」気分になります。

何より楽しいのは、活動が終わって数日

後に開催される「反省会」と称した、お父

さんどうしの飲み会です。運動会後の「反

省会」では、地域の父親がたくさん参加し、

校長先生や、卒業した上の娘の担任だった

先生も参加して下さいました。保護者と教

師というより、男同士、グラスを傾けなが

ら、お互いの子どものうわさ話(?)に花

が咲きました。

こんな遊び半分で偉そうに言うのは恥ず

かしいですが、日ごろ任んでいても顔も合

わせないサラリーマンの父親同士の顔、お

づくりにつながるんじゃないか…。とまあ、

楽しんだ後から付けた理屈ですが、思うん

です。

親が地域を知るとともに、子どもが社会

を知ること大切だと思います。

また手前味噌ですが、今年も八月、した

まち支局は、荒川区立第一中学校の生徒を

受け入れ、職場体験学習を行いました。男

子生徒が支局の記者と一緒に、東京スカイ

ツリー周辺の商店街を取材しました。その

記事は、八月二十三日朝刊第二社会面に掲

載されています。この朝刊を担当した本社

デスクは、私でした。

男子生徒は、スカイツリーにあれだけた

くさんのお客さんが来ているのに、周辺商

店街にお客さんが増えていないことを取材

して、「良い店が知られていないのはもっ

たくない」と感想を話したそうです。子ど

もなら誰もがすごいと思うスカイツリーに

も、マイナスの面もあることを知ったのは、

すごいと思いました。

子どもには難しいことですが、世の中の

課題や矛盾を少しでも知ることは、子ども

の生きる力を育てる上で必要だと思います。

将来、そうした問題を解決しようと思っ

て、世の中をより良くしてくれれば、すば

らしいことだと思います。

(東京新聞 社会部部次長  
〔前・したまち支局長〕 榎本哲也)

せめて、大人も子どもも、地域に顔見